

# 薬草園の花だより

第25号

2020年（令和2年）10月14日発行

## ■第25号に寄せて

先日、2020年10月4日（日）と11日（日）に、本学1年生の対面交流企画が学生委員会の主催にて開催されました。その企画に対面講義体験や懇親会などとともに、薬用植物園見学も組み入れてくださいまして、短時間でしたが案内することができました。薬用植物園では、園長とともに、是非この「新1年生歓迎の企画」の手助けをしたいとのことで、植物のお世話をしてくれている野本有香さんも案内にあたってくださいました。4日は午前中4組、11日は午前と午後それぞれ4組ずつの計8組に薬用植物園の役割や、植栽されている植物の数、温室の広さなどをお話ししたあと、温室前に植栽されている薬用植物の2～3種についての簡単な説明をし、「それぞれの薬用植物がそれぞれの物語を持っていること」をお話ししました。花は紫色なのに根が黄色なので「コガネバナ」という名前のある植物や、薬用人参によく似ているキキョウの根などは野本さんがあらかじめ掘り取ってくださいましたので、それぞれを示すことも出来ました。学生たちはとても熱心に聞いてくれ、帰り際にはわざわざ「ありがとうございました」と個々に挨拶していく学生さんも多くいて、この見学会を引き受けてよかったですと思った次第です。薬用植物園は学生の皆さんのお手伝いとなることを目的として設置されています。やがて自由に入構できるようになりましたら、新1年生に限らず、是非、足繁く薬用植物園に向かっていただきたくお待ち申し上げております。

この間まで連日、真夏日とか猛暑日と言っていたのに、いつのまにか、とくに朝夕はめっきり涼しくなってきました。おそるべき生命力ではびこっていた雑草と呼ばれる植物たちもかなりおとなしくなりました。私たちはマスク生活が日常化したためか、季節のうつろいに鈍感になっていましたが、いつのまにか秋、それも深秋になってしまいました。しかし、植物たちはこのような人間界の騒がしさとは無関係に、秋の花たちがそれぞれの営みを始めています。薬用植物園では、来年用の植栽の準備も着々と進められています。温室前の圃場では、来春用のベニバナの芽が生え揃いはじめました。

（日本薬科大学薬用植物園長／船山信次）



ベニバナの芽生え

## ■今咲いています・見頃です

今、ちょうどエビスグサがたくさんの果実をつけています。また、ケチョウセンアサガオの果実がすっかり成熟しました。ゴマも果実をつけています。

### 《エビスグサとハブソウ》

エビスグサ (*Cassia tora*、マメ科) の名前ですが、牧野新日本植物図鑑(北隆館)において他の植物図鑑でも、「外国から渡ってきた植物ゆえ、この名前が付いた」となっています。でも本当にそれだけでしょうか。私は、何となく、牧野富太郎先生が言い始めた「異国から渡来したからこの名前が付いた」という説が一人歩きしているだけのように思います。実際、この植物の果実の様子は七福神の恵比寿様の持っている釣竿に見えるし、その眉にも鬚にも見えます。これらがエビスグサの名前の由来に思えますが皆さんはどう思いますか。



エビスグサ



ハブソウ

エビスグサの種子をケツメイシ（決明子）といい、決明子はハブ茶の原料になります。なぜエビスグサの種子を原料としているのにハブ茶なのでしょうか。

実は本来のハブ茶の原料はエビスグサと同属のハブソウ (*C. occidentalis*) の種子なのです。ハブソウの種子をボウコウナン（望江南）といいますが、ボウコウナンよりもケツメイシの方が力ビたりせず、扱いが楽でより多く収穫ができるので、段々とケツメイシがハブ茶の原料として使われるようになったとのこと。その成分としてアントラキノン類があり、その作用として緩下（かんげ）作用があります。近縁植物としてセンナ (*C. angustifolia*) も知られていますが、センナの下剤としての作用はより強力で、同じように扱うことは出来ません。

### 《ゴマとケショウセンアサガオとナス科の植物》

チョウセンアサガオ (*Datura metel*、ナス科) の種子はゴマ (*Sesamum indicum*、ゴマ科) と似た雰囲気のためか、以前、高校生たちがこの種子を河原で調理していた鍋に入れて中毒したことがあります。今、薬用植物園にてはゴマが果実をつけています。また、チョウセンアサガオ類の根はゴボウの根と似ていて、ゴボウと間違えて食べて中毒した事件もありました。この仲間にはヒヨス (*Hyoscyamus niger*) もあり、いずれも有毒成分はアルカロイドのアトロピン類です。アトロピン類が得られる植物には、他にわが国に自生するハシリドコロ (*Scopolia japonica*) やヨーロッパに自生するベラドンナ (*Atropa belladonna*)、マンドレーク (*Mandragora officinarum*、マンドラゴラともいう) などもあります。いずれもナス科の植物です。

ナス科には有用な植物がとても多く、ナスやジャガイモ、トマト、ピーマン、トウガラシ、タバコ、ペチュニアなどが野菜や嗜好品、園芸植物として応用されています。ジャガイモは南米原産の植物で当初、西洋社会に伝わったときにはその花を観賞するために栽培されました。やはり南米原産のトマトは当初、毒があると思われて食べられることなく、主にその果実が観賞されていましたが、その後、大いに食べられるようになりました。トウガラシも南米由来で、わが国には江戸時代の少し前の南蛮貿易にて伝わりました。今でもトウガラシを「南蛮（なんばん）」と称する地域があります。なお、コショウ（胡椒）の方はトウガラシより約800年早く、遣唐使が奈良時代にわが国にもたらしました。756年に成立した東大寺正倉院には当時のコショウが現存しています。



ゴマの結実

## ■秋を迎えて

猛烈な暑さの夏でしたが、いつのまにかツクツクボウシの声も聞こえなくなってしまい、すっかり秋の様相となりました。秋を迎えた薬用植物園や周辺の植物の様子をいくつか紹介します。

### 《ダリア・ガジュツ・ヒオウギ（ヌバタマ）・コルチカム・コナラ》

ダリアは夏の花というイメージがあるかもしれません、本当に美しくなるのは秋を迎えた今頃です。ガジュツが美しい花をつけました。撮影は職員の野本有香さんによります。前号でヒオウギ（アヤメ科）の鮮やかな朱色の花を紹介しま



ダリア



ガジュツ



ヒオウギ（ヌバタマ）



コルチカム



コナラ

したが、今はもう花がおわり、その種子の様子が見られます。この種子の黒色はとても印象的でとくに「ヌバタマ（射干玉）」と呼ばれることもあります。短歌の枕詞の「ぬばたまの～」はこの種子の色からきており、艶のある吸い込まれそうな深い黒です。温室前のコルチカムが満開となりました。コルチカムはイヌサフラン科の植物で、同じ仲間の植物には以前紹介したことがあるグロリオサ（ユリグルマ）もあり、いずれもアルカロイドのコルヒチンが含まれます。一方、キャンパス内では、コナラがたくさんの実をつけています。いわゆるどんぐりです。深秋という感じのする候となりました。

## ■薬用植物園からのお知らせ

### 《皆さんをお待ちしています》

まもなくハロウィンをむかえます。新型コロナウイルスの影響で、残念ながら学生さんたちの大学構内への入構制限は続けられていますが、薬用植物園ではいつも皆さんがいらっしゃって良いように植物の世話を続けられています。皆さんがまた元気にキャンパスに戻されることをお待ちしています。またハロウィンなどの季節の行事も一緒に楽しみましょう。

発行：日本薬科大学薬用植物園